

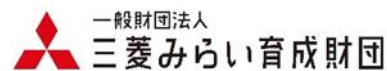
R6 5年生 FEWC イノベーション企業訪問研修@シンガポール 報告

研修の目的：世界に貢献するための創造的な提案を行うことを目指して、4年次より行ってきたイノベーション学習（イノベーションの基礎理論の学習、自ら興味のある特定のテーマについての学習）に基づき、シンガポールでの企業訪問における実際の見聞を通して、イノベーションとは何かを深く知り、自己の課題研究においてイノベーションの考え方を活かした提案ができることを目標とする。

実施日：2024年10月6日

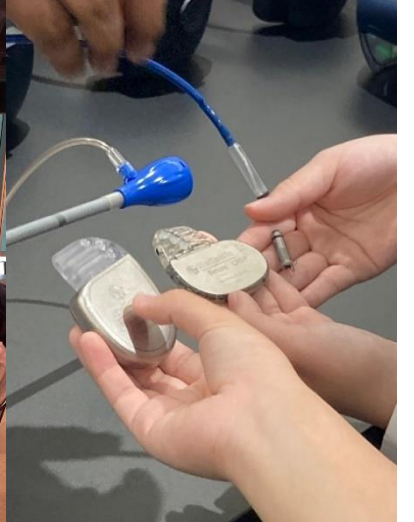
訪問先企業(または研究機関)： Vertex Holdings, DRIPLEX, SCS-invictus, JETRO, AI Medical Service Asia Pte. Ltd., MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, Nippon Medical Care, Gleneagles Hospital, Central Midori International, GE HealthCare, Sony Network Communications Singapore Pte. Ltd., Medtronic Singapore, susGain, Yakult Singapore, Pasona Singapore, H I S, Nishimura & Asahi (Singapore) LLP

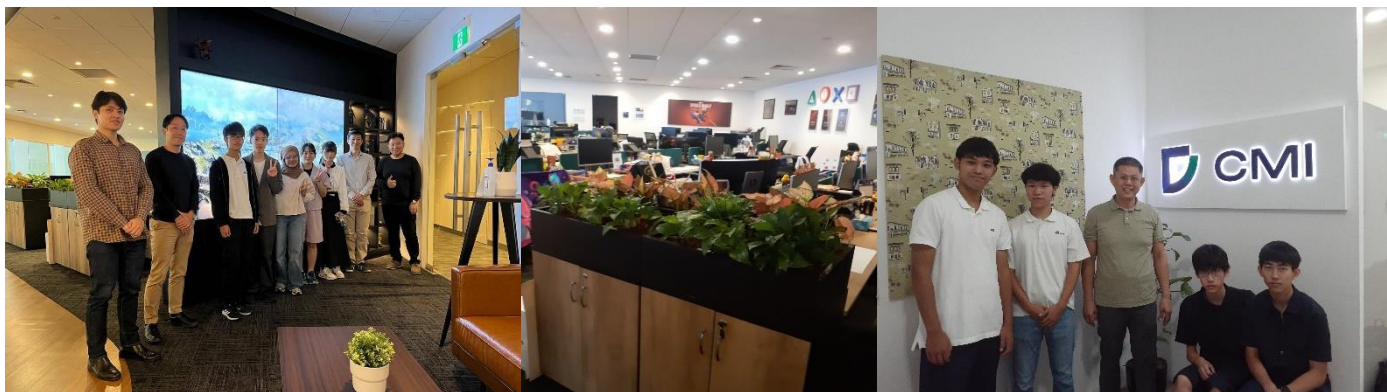
※今回の企業訪問は、三菱みらい育成財団の助成金の支援を得て、実施しています。



訪問当日の様子：







感想 (「シンガポール海外修学旅行を振り返る：「企業訪問についての感想を書いてください」に対する回答より)：

・オールイングリッシュでの投資に関する説明や問いかけにはじめは緊張したが、とてもわかりやすく話してください、加えて私達が説明についてきているかを随時確認していただいて、十分理解することができた。英語が堪能でなくても自分たちで企業を探して、アポを取って、投資について学ぶことができたということに対して自信がついた。

・日系企業なので日本と似ていることも多かったが、シンガポール特有の働きかたも見ることでとても刺激になった。特に社員同士の関係性がかなりフラットで、日本と比べて上下関係が厳しくないことが印象的だった。また、グローバル化に関する話になったときに企業の方から「自国に来る人を受け入れることもグローバル化の一つだ」ということを聞き、世界だけでなく自国の文化もしっかり学んでいくことが重要だと痛感した。

・あまり医療系の知識がないため、理解できるか不安だったがわかりやすく説明してくれたため、すごく楽しく話を聞くことができた。G社は、イノベーションがたくさん詰まっている会社で、イノベーションの観点からもすごく勉強になった。

・日本人の方が対応してくださったのもあって、Sさんの主観が入っているとしても日本とシンガポールを対比しながら進めてくれたのでお互いどこが優れていて、どこが改善すべきなのか、他者目線で見れたのが新鮮だった。私は日本で働く決めていたし、海外で働きたいとは思っていなかったが、今回の訪問で日本ではなく海外で働きたいと思う人の気持ちがわかった。海外で働きたいなという気持ちが芽生えた。

・おしゃれなオフィスだった。英語のプレゼンを日本人の方が補足して説明してくださる形式でとても勉強になった。人が少なかったため、休日出勤させてしまったのかとひやひやしたが、金曜日なのでみんな家で仕事している、と聞いてカルチャーショックを受けた。

・質問の時間を多くとってください、自分の研究に関係のあることを詳しく聞くことができた。ご自身の仕事に誇りを持っていらっしゃるのが伝わり、イノベーションだけでなく働く人としての見本を見せていただいたように感じた。

・企業の会議室にお邪魔して、座ってお話を聞く形の訪問だった。相手の方が丁寧に対応してくださって、たくさんの質問にお答えいただいた。自分では考えたこともないようなことに取り組んでいらっしゃる、とても興味のわくお話だった。日本の学生に対してのメッセージとして、海外に出て日本を外から見たいというお話があって、自分の国について考え直すきっかけになった。



・事前にいただいていた本を読んだこともあって企業に対してよく理解したうえでプレゼンを聞いたので、なるほどと思う場面ばかりで、すごくためになった。また実際に内視鏡を持ち AI を利用しながら胃がんを見つける体験ができたのが、なかなかできない体験だったので、すごく面白かった。

学んだこと

(事後アンケートの質問「イノベーション学習を終えて、あなたはイノベーションとはどのようなものだと理解しましたか。この学習を通してあなたがわかったこと、気づいたこと、発見したことなどを、自由に書いてください。」への回答より)：

○なにか新しいものを生み出すのに、リスクはつきものでそれをどう活用していくかが重要だということが分かった。将来仕事するときも、失敗することを考えるのではなく、そのものをどうしていきたいのかを最優先に考えて、物事を進めて行きたいと思う。

○イノベーションは単に和訳すると技術革新と表現されるが、実際に企業訪問をして話を聞いたりその体験を別の生徒から聞いたりしてイノベーションには様々な種類があることがわかった。例えば弱点を長所にする既存のものを良くするイノベーションや、新しい製品を作るイノベーションがあることが印象に残った。

○ある一つの変化を加えることが、それが核心をついているために、それを取り巻く社会の常識を変え、社会の構造をかき回すほどの力になること。

○世界情勢や社会の動きにアンテナを常に高くはって、いち早くニーズに気づく。そしてビジネスをそこにぶつけるということが、イノベーションの基本であり、真髄であると感じました。私も常に俯瞰的で広い視野をもって世界を眺め、イノベーションを生み出す人材でいたいと思いました。

○イノベーションとは、身近でも発生しうるものであり、意外と思いつくところまでは誰でも到達しうるが、最も大切なことはその考えたことを徹底してやることである。そのための手段として、仲間を作ったり、海外に行くことはとても有意義である。

○あまりにタイトな環境ではなくリラックスした環境でイノベーションが生まれるのだとわかった。またシンガポールは日本と比べ新技術などの導入がすぐになされ、手続きも煩雑ではないとわかった。新しいものをすぐ受け入れ実践する精神もイノベーションにつながるのではないかと思った。

○イノベーションを達成するためには柔軟な発想力や知識などは勿論求められるが、何より大切なのは人々の挑戦や意見を持つとする意思だと分かったし、誰でも達成することができるものだと思う。

○イノベーションは既存の考えを打破することが必要であり、そのためには消費者のニーズを理解する力やイノベーションを起こすのに適した環境が必要になっていくということを学んだ。

○今この世に存在しないが需要があるものを生み出すこと。それはゼロから作ることもあるし、何かと何かを組み合わせることもあるし、何かを他のものに応用することもある。

○イノベーションとは、他者との違いを理解して初めて生まれるものだと思う。また、イノベーションにはリスクがつきものではあるが、成功したときに何かを大きく変えることのできる力を持っていることがわかった。

○イノベーションというのはただ新しいアイデアやものを生み出せばいいわけではない。それぞれの国、自治体、地域によって人々のニーズは違い、それに沿って生み出されたイノベーションでなければ価値がない。イノベーションを起こすとき、まずは対象とする地域をよく知ること、そしてその地域のニーズをよく知ることが重要になる。しかし、崩れたものを作り直すことよりもゼロからイチを作り出すほうが簡単である。どんな考えでもイ



ノベーションになりうる。様々なことに興味を持ち、好奇心を持ち、自由な発想を日頃からすることを心がけていきたいと感じた。

○イノベーションとは、何か社会に影響を与える大きな発明ではなく、いろいろな経験をしていくことによって自らの価値観や生活をアップデートしていくこと。



○国や地域によって求められているものは異なるため、自分がビジネスを広げたいと思う地域の特徴を詳しく分析し、計画立てていくことが大事であるということ。

○イノベーションはみんなの生活をよりよくする新しいものをつくることだと思う。イノベーションは一人ですぐに起こせるものではないから、普段から周りの環境をよく観察する目を鍛えて周りの人と協力することが大事だと思った。

○はじめは、新しいことを作り出すことだけを考えていましたが、学んでいくうちに、今あるものを活かすことの大切さや、他の企業と技術共有をし、2つ以上のものを組み合わせることでより良いものを作ることができたり、そこから気づきを得て新しいものが生まれると知ることができました。

○イノベーションは社会課題を解決することを考えていけば起こせることである。イノベーションを起こすためには失敗を恐れずにチャレンジすることが大切だとわかった。

○何もないところから生み出すのももちろんイノベーションだけれど、他の人や企業が行っていることや、もともとあったものの反省、弱点を克服する手段を考えて、実行することによってより大きな効果を得ることもまたイノベーションと呼べると感じた。

○日本とシンガポールの医療の違いを知り、シンガポールは日本よりも無駄がなく、効率的に医療ケアを行う体制が整っていると感じた。それはシンガポールが日本をはじめとする先進国の失敗を見ているからであり、どうすればうまくいくのかを独自に考案したからであると分かった。新しい意見や機械を取り入れることに慎重になりすぎず、大胆に行動して試みるのが大きなイノベーションに繋がる一歩になるかもしれないと学んだ。

社会をより良く発展させていくには社会を一つにまとめ一丸となって一つのことに向かっていくだけでなく、意図的に分割させて競争させることで全体がより良くなっていくことがわかった。

○イノベーションは誰もやったことがないことに挑戦することだと理解した。どんなことだろうと始めてみなければ何も起きないので、まずはやってみることが大事であり、すべてのスタートラインになると感じた。

○一概にイノベーションと言っても、国や企業同士だったり、技術のイノベーションだったり様々な形でイノベーションがあった。しかし、どんな形のイノベーションであってもイノベーションを起こすのは人であるから共通して平等な視点でコミュニケーションを取ることが大切だとわかった。

○必ずしも世界が変わるような超偉大で素晴らしいものを発明するわけではなく、身の回りの困ったことを解決するような小さいこともイノベーションである。もっと言えば、失敗して試行錯誤していることもイノベーションになるのかなと思った。

○幅広い知識をもってつなぎ合わせることで物事を創造することだと理解した。一つのことだけではなく、多くのことを知ることが重要だと思いました。

○自分が持っている考え方を1つだけが正しいと思わず、自分の考えを俯瞰的に見て、新しい立場でのもの考えることが大切だと思いました。

○自分が持っている考え方を1つだけが正しいと思わず、自分の考えを俯瞰的に見て、新しい立場でのもの考えることが大切だと思いました。



○既存のものをより良くしたいという動機から出来上がることでなく、自分の興味が人の役に立つかもしれないという理由からも始められるものであると理解した。

○イノベーションとは、自分ならではの視点で物事を捉え、新しい切り口を見つけることだと思った。世界を丸ごと変えてしまうような大きなものがイノベーションだと思っていたが、何かを新しく生み出すことやその独自性もイノベーションの一つだから、あまり大きさは関係ないのだと気づいた。

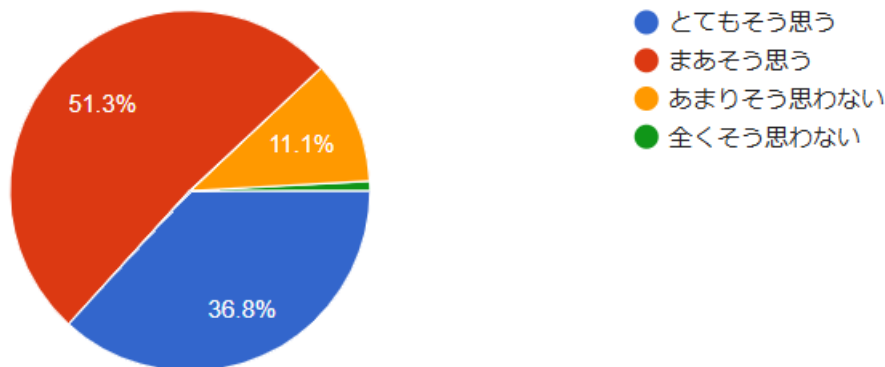
○より暮らしやすくなるためや、効率よく物事が進んだり、精度が上がったりするためには何が必要かを考え、どのようにしてそれを実現するかを研究すること。

○イノベーションは自分の想像以上に身近なところにもあると感じた。また、自分ひとりでイノベーションについて考えるだけでなく、自分の意見をしっかりと他の人に伝えることで、イノベーションの実現や自分の提案の改善につながるとおもった。

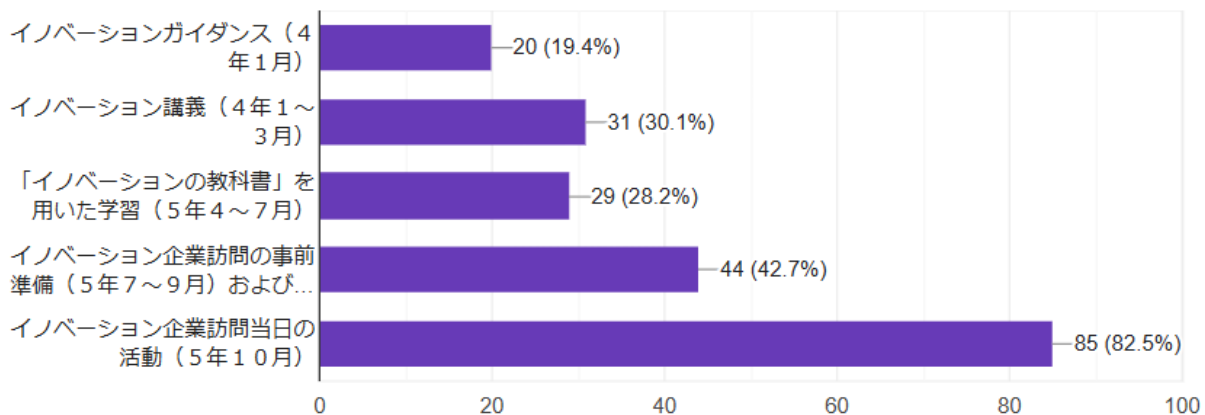
○イノベーションとは一種の転換点であり、それぞれの分野や業界、また、そこからさらに発展をすることにより世界的な変化を及ぼすものを意味する。イノベーションは新たな発見や要素が影響することで起こり、それは若い世代による新しい視点や別の分野からの知識の応用など様々なものが要因となりうる。

学習到達度への評価（イノベーション学習事後アンケート調査結果より）：

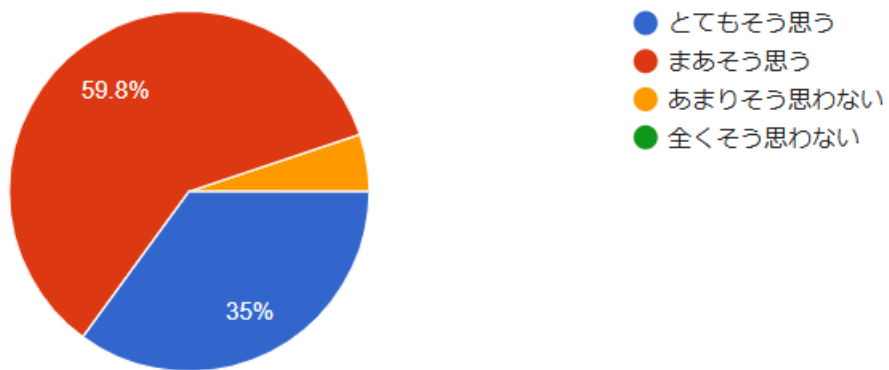
イノベーション学習（4年3学期～5年2学期）を行う前と行った後と比較して、あなたのイノベーションに対する理解は深まったと思いますか？



上記質問で「とてもそう思う」または「まあそう思う」と答えた人に尋ねます。理解を深めるのに大いに役立ったと思われる FEWC での学習活動を、以下の選択肢から選んでください（複数選択可）。



イノベーション学習は、あなたが自分の課題研究において創造的な提案をすることに役立った、または今後役に立つ、と思いますか。



イノベーション学習は、あなたが将来創造的な人材として社会に貢献するための準備として、役に立つと思いますか。

